ベストクラス選定理由書

作成者：中村伊吹・吉村勇人・中山楓・坂本愛梨・篠原利治・左海里帆・柳真人・伊藤博之

科目名称　　教養ゼミ（13） （担当教員名：森山潤・永田智子・垣内敬造・山下義史）	
課　　程：学部	開講時期：後期
授業形態：演習	授業規模：３０人以下
インタビュー対象教員名　森山潤・山下義史 （実施日時：8 月 22 日；　実施場所：Zoom 上）	
インタビュー対象受講者名　柏木智帆・古本杏奈 （実施日時：8 月 22 日；　実施場所：Zoom 上）	

選定理由

本授業では企業と連携をしながら STEAM 教育についての理解を深め、フラグシップ大学にふさわしい授業作りを目的としている。そのため、まずは STEAM 教育についての基礎知識を入れた上で、日本の教育に馴染むような方法を模索し、知る学びと創る学びの融合を狙いとしている。

授業評価でのたくさんの良コメントと今回のインタビューからこの狙いを達成すべく効果的な取組が実践され，受講者もそこに積極的に関与した様子がうかがえた。

1．外部の企業との交流がある授業の展開

本授業での特筆すべき点として、アドベンチャーワールドとの SDGs についての取り組みが挙げられる。実際に現地で視察を行い、アドベンチャーワールドの社員をゲストティーチャーとして招き知る学びと創る学びの融合を体現した授業を提供していた。実際に視察を行うことでみえてきた問題点に対して自分たちでアイデアを出し、傍観者ではなく、解決の主体者として、課題解決を行うことができた。今後、同じような共創活動の可能性を見出すだろう。

2．興味深い授業のための工夫

たった半年のみの授業ではあるがそれまでに至る準備期間が数年にも及んでいることに驚いた声が受講者から多く挙がった。このことからわかるように教員側からの工夫、熱量の高さが伺えたそうだ。それにより受講生もそれに応えようと会話が増え、実りある内容によりオーセンティックな学びが毎回行えたようだ。他にも「分業や協業」を行うことで活動をスムーズに行うことができるような工夫が施されている。

3．一発勝負の授業における制約に対する教員の工夫

この授業は企業の協力が不可欠であるため、制約も多かったそうだ。しかし、あえて制約から課題解決のヒントを得ることで柔軟な発想を育ませるようにしていたそうだ。そして、制約やアクシデントを教員側が楽しんでいたように見えたという声が多かったため、一発勝負の授業が成立したと考えられる。

以上のことから、本授業を令和 6 年度「ベストクラス」として推薦する。